

広がれ、つながれ、みんなの思い

これまでに世界中からとどけられた支援やはげましを受けて、仙台市の小学生はどのような活動をしているのでしょうか。

1 世界中の思いをのせて

榴岡つじがおか小学校には世界中からたくさんの折り鶴おづるがとどけられました。一人のアメリカの高校生が、東日本大震災で被災した人々のために何かできることはないかと考えたことが始まりだそうです。

世界中の人々の思いが詰まった200万羽の折り鶴をほかの人たちにも見てほしいと願った榴岡小学校5年生・6年生の児童は、東二番丁小学校の児童や大学生と協力をして、仙台駅の商業施設で『折り鶴プロジェクト・にじいろパレット・ありがとうをかたちに』を開きました。世界からの支援の輪わと復興へのシンボルとして、折り鶴を使ったアートオブジェを作るためにポスターを作って、一般の人々へも参加を呼びかけました。

2 世界の人々へ

大きさも色も素材もさまざまな10万羽の折り鶴が、会場に広げられました。『世界のハートをつなごう』と、折り鶴をはって縦3.6m、横4.5mの巨大な世界地図とうめいを作りました。

12cm四方の透明なキューブきゅうぶに折り鶴をつめ、周りをテープや色紙で飾り付けた『ギフトキューブ』という活動も行いました。

一連の活動は、NHK国際放送で、世界に向けてしょうかいされました。世界の人々の思いを受け止めて、今度は、児童が感謝をこめて、新たな形にした折り鶴を羽ばたかせたのです。



会場に飾られたハートの世界地図
2012(平成24)年1月



キューブで作ったオブジェクト
2012(平成24)年1月

3 被災地へ

この折り鶴にこめられた人々の思いをもっと伝えていきたいと思った児童は、修学旅行で福島に行くときに、被災した地域の小学校にキューブをとどけよう決めました。

この活動は、次の年の6年生にも引きつがれ、福島の小学校との交流は現在も続いています。



福島の小学校にとどけられたキューブ
2012(平成24)年6月

? 考えよう

○世界中から受けた支援やはげましにこたえるために、自分たちができる活動について話し合ってみましょう。

きたろくばんちょう 小学校の第6学年の取り組み例(総合的な学習の時間)

「未来に向かって今を生きる～私たちがつくる未来のまち～」の学習に取り組んだ6年児童。絆きずなの強いまちづくりのために、自分たちが考えた地域貢献イベント「和・話・輪フェスティバル」を実施しました。

実施後、取り組みの成果と課題をふり返り、今後さらに地域の絆を強めるために自分たちにできることを考えました。



～和やかに話して、地域の輪をつなごう～
北六番丁小学校

*「和・話・輪フェスティバル」とは、地域の団体の方に体育館の各ブースで活動の様子を発表してもらう北六番丁小学校独自の取り組みです。児童や保護者、地域の人々の交流を進めることをねらいとしています。